

山陰教区 門徒総代会だより

編集・発行：浄土真宗本願寺派山陰教区門徒総代会 会長 橋本正嗣
〒690-0002 松江市大正町443の1本願寺山陰教堂 TEL 0852-21-4747 FAX 0852-27-8351



2023 (令和5) 年度 門徒総代会研修会 (質疑応答)
10月16日 (月)、本願寺山陰教堂で開催。講師は山名立洋 師。(4 ページに記事)

各組代表理事寄稿

二〇二二(令和四)年度よりご就任いただきました各組代表理事の皆様にご寄稿をお願いいたしました。アフターコロナにおける各組・各ご寺院での取り組みなどご参考ください。

鹿足組 橋本 正嗣 (会長)

門徒総代として鹿足組や山陰教区の会合や活動に参画するようになって四、五年。

今年は親鸞聖人ご生誕八百五十年、立教開宗八百年の慶讃法要が山陰教区、鹿足組ともそれぞれに厳修され、ご縁を授かりお参りさせていただいたこと、八十才の私にとって終生の思い出となり、身に余る光栄なことでありました。

親鸞聖人は「世の中安穩なれ」とお示しにされました。ロシアがウクライナに侵攻して早二年近く経過しましたが、結着の目途は見えず、さらにイスラエルとハマスとの紛争も勃発し、み教えとは真逆の状況にあります。私達は御同朋の社会をめざす運動を展開しておりますが、その中心の一つに人種、民族、部落などあらゆる差別ならびに虐待、暴力、戦争に反対し公平公正、平等、平和な社会の実現にあると理解しております。

しかし途は極めて半ばにあるのではないのでしょうか。更なる運動の広がりを感じます。合掌

大田東組 竹本 嘉人 (副会長)

大田東組では親鸞聖人御誕生八五十年・立教開宗八百年慶讃お待ち受け法要を九月三十日、大田市・正藏坊でお勤めました。

一五〇人が参拝し、法要前の帰敬式では二十一名の受式者があり、組内十一名の僧侶と、雅龍会による雅楽演奏のもと、厳肅に法要が勤められた。記念公演では姜晧艶(ジャン・シヨウエン)さんの二胡演奏やピアノ、雅楽の共演があり、荘厳な法要と、初めて耳にする二胡と雅楽のハーモニーに、多くの参拝者からたくさん感動の声をいただいた。

この度、チーム大田東組が立ち上げた慶讃法要は盛大に勤まり、これを機縁に「開かれたお寺」を目指し、み教えをよりどころとして努力を重ねたい。

鳥取因幡組 竹内 紀彦

十月十四日に浄善寺を会所に、任職関係九名、総代二十九名参加のもと、山名立洋・養源寺住職を講師にお招きし『現代寺事情』をテーマに今年度の門信徒研修会を実施しました。基調講演のあと、四グループに分かれてのワークショップを行い、少子高齢・過疎化が進む現代における「これからの寺」のあり方の一つの方向を話し合いました。住職とともに総代が考えなければならぬことが多くあることが自覚でき、非常に有意義な研修会となりました。

鳥取伯耆組 紙本 克美

鳥取伯耆組総代会主催の門徒交流グラウンドゴルフ大会が開催されました。この大会は、各寺院持ち廻りで門徒の交流を目的に開催され、二十五回を数えています。

大会は九チーム五十四人の参加で、各チームの対抗戦とし、ラウンド中はお互いに「ナイス」「惜しい」と声を掛け合いプレーを満喫しました。ラウンド終了後、成績発表と懇親会を行い大

会を終了しました。今後は参加チームを増やし盛大に開催し、継続して交流を図っていきます。

松江組 古山 亮二

松江組は、昨年六月九日(金)に、本願寺山陰教堂で各寺院出席者を割り当て、二十九名の参加のもとで四年振りに門徒総代会総会を開催しました。四月一日付で山陰教区教務所長を拝命された、農利信師に講師を依頼し「門徒総代として歩もう住職とともに」をテーマに研修会を実施しました。

初めに東日本大震災、熊本地震等での経験談を話され、いつ何が起るかわからない災いに備えておくことが重要であると認識しました。

出雲組 榎野 博巳

七月十一日(火)出雲組総代会の二十三名で総会・研修旅行に出かけました。

総会にはバスの中で終え、本願寺広島別院に参拝させていただきました。

広島別院は、第四連区(中四国地区)の大会などでなじみのあるところですが、改めて沿革を聞くと、一層の

ありがたさを感じました。山口の錦帯橋で懇親を深めながら昼食をいただき、帰路につきました。

今後は、令和六年二月十六日(金)、出雲空港ホテルにて、自主研修会・懇親会を開催する予定です。

神門組 神田 進

神門組総代会は、組内三〇ヶ寺で構成され、令和三年には発足五〇周年を迎え、記念行事をお勤めいたしました。

主な活動としては、「総会」、「総代会研修会」及び「組内寺院巡拝」です。「総代会研修会」は、懇親を主な目的に開催するものですが、第一部は、勤行、法話、そして第二部は、アルコー

ルも入り、懇親会で盛り上がる時間です。

「組内寺院巡拝」は、組内の寺院を毎年二〜三ヶ寺参拝し、参拝寺院の縁起や教化の状況などを知らせていただき、最後の寺院でご住職のご法話を聴聞させていただくご縁であります。

出雲南組 吾郷 生善

ご本山慶讃法要に、三月三十日、慈眼寺を代表して三名参拝させていただきました。親鸞聖人誕生八百五十年、立教開宗八百年という節目の大法要にご縁をいただいたことに感謝しております。ご本山での法要勤行の感動は終生の思い出となると思います。この感動をぜひ私達の寺の門徒の皆様へもお伝えしたいと、住職のお勧めもあり、十月十五日、報恩講において参拝者会員から報告いただきました。

飯南組 大森 民雄

「結ぶ絆から、広がるご縁へ」をスローガンに、重点プロジェクトとして、施設開放と門信徒ネットワークを活かした実践運動を推進しています。

ポランティア宅本便(年三回)、夏休みラジオ体操と朝のおつとめ、四年振りのキッズサンガ(子ども報恩講)を開催しました。

又、親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を、令和六年二月二十四日、一八〇名の参詣でお勤めしました。

大田中組 三井 隆治

◎基本的な考え方

新型コロナウイルス感染症が五類に移行したとはいえ、ウイルスの脅威は変わりありません。今後も感染予防に尽力する日々は続くと考えています。まだコロナ禍は継続しているとの考えから注意事項は継続させていきます。特に私達は高齢者集団であり、命にかかわるケースも考えられるための対応でもあります。一方で注意点を規制の範囲内で、人との交流や繋がりを少しずつ増やす進め方もしています。しかし、この人の交流や繋がりは目的ではなく単なる手段であるとの考え方は、要は心も体も健康に過ごすことができれば、高齢者になっても生きがいを感じられ、一日一日が満足でき「良かったなあー」の思いができるものだと思います。

◎心・身に溢れる生きがい感を(生き生き)と

満足や生きがい感のキーは3用であると考えています。

①今日も会う用がある。②今日も行く用がある。③今日もやる用がある。

如何でしょうか。若い時は仕事をしていたから当たり前田のクラッカーでしたよね。逆に、若い時期は時には何も無いフリーの日が欲しいと思つて過ごしたものです。しかし、高齢者になると懐かしいもので、元来私達は無い物ねだりなのです。

要は、この生きる喜びの3点を門徒の各位が如何に確保して行けるかが課題なのです。この3用は十人十色の価値観の世の中では、自分で作る工夫や努力が大切なのですが、そう簡単にはいかないのが現実です。最近の老若男女の孤島や孤立や孤独の広がりが具合からも、個人の自由の範囲だ

から云々の考え方だけではうまくいかない事も解って来ています。コロナ禍の社会では高齢者だけでなく、残念ながら若者までもこんな環境になってきています。そういう意味からも、3用と言う三つの切り口から新たな攻め口を見つけていかなければならない時期に来たかなあーと感じます。

◎環境認識

コロナ禍から来た右記のような社会や生活環境の変化ですが、残念ながら解決策は未だホワイト・アウト状態でマンネリ化しています。今の先進国各宗教も若者離れが進行してきています。これまでの時代、宗教は知識や知恵として深く強く関わってきましたが、最近、宗教は情報の中の一部となり、知識や体験や経験からくる知恵の位置づけや重要性も減少し、宗教も情報の一つであると捉えている傾向を感じます。これも情報氾濫社会の一つなのでしょうね。

このように知識と情報を勘違いする情報過多社会ですから、本当の体験や実経験をしなくても、単なる情報から空想経験や空想体験で生きていける。だから、「何も問題ではない！」の感覚が強まり、自分で生活ができる、だから人にも会いたくもないし、用もしたくないし、行動もしたくない。結果として関わりを持ちたくない。自分が自分で自分を好きにしたい、生き方を邪魔されたくないという夢見る桃源郷候群的社会となったと言っても良いと思います。

◎課題

残念ながら、ある意味リスクは高まるばかりであると考えられます。しかし、本来ここが宗教の出番なのです。まず知識とは情報の一つだと考えている勘違いを改めることで、知識とは情報ではない別のモノで

あるの認識がまず必要です。そのためには実体験・実経験をすることで情報と混ぜ合わせ、混じり合うことで情報と本物の知識となることを関係する各部位で実践できる工夫が必要。前記で重要項目として上げた3用を切り口に攻め口を求めていくことが今からの課題です。

大田西組 小川 和邦

私たちの大田西組は文字通り大田市の西部の地域の十八ヶ寺で構成されています。従来の組の区割りから再編・統合され、本年四月には満十二年目を迎えます。温泉街を持つ市街地区、半農半漁地域、純農村地帯と地域特性を持つ地域で構成されており、門信徒の気質も微妙に違います。山陰地方の多くの地域と同様、過疎と高齢化が進行し、伝統文化などの維持継承が難しくなり、これからの寺院経営に影響があるのではと心配するところですが。

佐波組 尾原 繁樹

佐波組の若手住職として将来を嘱望されていた、明光寺第十七世・西原慎治住職が、五十一歳で安養の浄土に還帰されました。検診で膵臓がんが見つかり、一年半余りの闘病の結果でした。

十二年前に住職となり、「四季講」や「連続研修会」の幹事・講師を勤め、就任直後から毎月開催された朋友会は、コロナ発生まで九十七回を数えました。平成二十四年二月、西本願寺で、一緒に僧侶・責任役員に任じられ、八十二歳の愚生が今も永らえ、将来ある住職が往生の素懐を遂げられたことは、人生の無常以外何も感じられません。

川本組 東間 宏之

今年度は「貧困の克服に向けて」組独自で定めた「お念仏のよろこびを、世代を越えて伝えて行こう」を目標に①子ども花まつり②総代研修③仏の子サマースクール④仏壮研修⑤子ども報恩講⑥実践運動推進協議会研修⑦組内寺院報恩講巡りの案内チラシを配布した。

人口減少や高齢化の影響で門徒数の減少や住職がいらない「無住寺」が増えている。組内十五ヶ寺中五ヶ寺が活動休止。また、報恩講をはじめとした年中行事の参詣者が減少している。

邑智東組 木村 勇

新型コロナウイルス感染症が拡がりお寺の法座も休まれるときがありました。今年五月から五類になり生活や法座も以前に戻りつつあります。しかし、私がお参りするお寺では、お参りする方が少なくなりました。原因はいろいろあると思いますが、お年寄りが亡くなられ、若い人の参りが多くなりません。私は聴聞を重ねて今自分に起こる総てのことを受け入れることができたらお寺に参る意味があると思います、多くの方にお寺参りを勧めたいと思います。

邑智西組 椿 公章

令和元年末から新型コロナウイルス感染症により、葬儀のあり方も変わり、報恩講等の諸行事が中止となった時期もありました。現在は、石見閩真会研修、邑智西組総代研修、各諸行事も聴聞の開始時間を変更して再開されています。お斎については現在も中止されて

いる所もありますが徐々に再開されることができたら良いなと思います。これから先、寺と門徒の関係をどのようにしていくかが課題です。

江津組 佐々木 卓

七月の江津組総代会総会において、図らずも組の会長の任に当たることとなりました。私にとって非常に荷が重いのですが、他の役員さん方にご指導いただきながら努めていきたいと思っております。

私ども江津組総代会の活動は主に会員の研鑽・研修であります。その中に「真宗念仏者の生活」という小冊子をテキストにした研修会があります。この冊子は江津組で独自に作成した冊子で、お仏壇や仏事のあり方、意義など浄土真宗のみ教えや仏事作法の基本をやさしく解説してあります。組内の住職を講師に研修しますが、総代といえども、知っているようで知らない事項もたくさんあり、非常に勉強になる研修会だと思っております。

浜田組 原田 義則

コロナ禍によつて葬儀も大きく変わり、ほとんどが家族葬で、流れ焼香となつてしまいました。このように葬儀が簡単にされる中、先人がみ仏の教えとして守ってきた信仰の原点が失われてきているように思います。故人への感謝の気持ち、生きざまについて話す機会も薄れ寂しい限りです。昔から先人が大事にしてきた、先祖、親族、親戚などの付き合いが徐々に薄れてきています。こうしたことが、当たり前になれば、信仰の原点が失われていくのではないかと、心配しています。

二〇二三(令和五)年度
門徒総代会研修会

二〇二三(令和五)年十月十六日(月)、本願寺山陰教堂教化センター研修室にて開催。

山名立洋師(鳥取因幡組養源寺住職、鳥取因幡組組長)を講師にお招きし、『求められるお寺とは』寺院サポート講座から見えて来たもの』と題し、講義をいただきました。

山名師は、浄土真宗本願寺派寺院サポート講座「お寺のビジョン作成研修」の講師を務めておられ、その中で感じられたことや、ご自坊での取り組みなどについて、パワーポイントを用いてお話しくださいました。多くの具体的な事例から、寺院運営のヒントをいただきました。

参加人数は六十二名。今年度はZoomによるオンライン配信も行い、三名のオンライン参加をいただきました。

研修会アンケートより

- これからのお寺を考えていくうえで大変参考になった。
- ハード・ソフト面で今後のお寺のあり方について体系的かつ具体的な事例を提示され、大いに触発されました。
- お寺を存続させるためにどうしたら良いか、真剣に考える時節だと感じました。

2022(令和4)年度 山陰教区門徒総代会 一般会計決算

自 2022(令和4)年4月1日 至 2023(令和5)年3月31日

【歳入の部】

款 項	費 目	決算額	予算額	対比△減	説明
1	繰越金	1,240,099	1,240,099	0	
1	前年度繰越金	1,240,099	1,240,099	0	令和3年度繰越金
2	会費	763,000	772,000	△9,000	
1	当年度会費	763,000	772,000	△9,000	令和4年度会費
2	前年度未収金	0	0	0	
3	研修会参加費	28,000	330,000	△302,000	
1	研修会参加費	28,000	330,000	△302,000	教区研修会参加費
4	助成金	160,000	160,000	0	
1	助成金	160,000	160,000	0	全国門徒総代会助成金(教区研修会)30,000円 全国門徒総代会助成金(組活動推進事業)30,000円 山陰教区助成金 100,000円
5	雑収入	10	7,901	△7,891	
1	雑収入	10	7,901	△7,891	預金利息
	合 計	2,191,109	2,510,000	△318,891	

【歳出の部】

款 項	費 目	決算額	予算額	対比※超過	説明
1	事業費	215,451	690,000	474,549	
1	研修費	134,601	600,000	465,399	教区研修会開催経費
2	会報印刷費	80,850	90,000	9,150	「門徒総代会だより」発行
2	会議費	171,189	250,000	78,811	
1	理事会費	109,889	150,000	40,111	理事会(各組代表者会)1回、監査
2	常任理事会費	61,300	100,000	38,700	常任理事会1回
3	教化助成費	240,000	400,000	160,000	
1	教化助成費	240,000	400,000	160,000	各組助成金1組20,000円
4	組織強化費	30,000	30,000	0	
1	組織強化費	30,000	30,000	0	全国門徒総代会教区負担金
5	事務費	27,886	90,000	62,114	
1	通信印刷費	18,381	80,000	61,619	発信費
2	事務諸費	9,505	10,000	495	振込手数料
6	雑費	0	10,000	10,000	
1	雑費	0	10,000	10,000	
7	出向費	1,159	30,000	28,841	
1	全国門徒総代会費	1,159	10,000	8,841	全国門徒総代会経費(オンライン)
2	連絡協議会費	0	20,000	20,000	
8	予備費	50,000	1,010,000	960,000	
1	予備費	50,000	1,010,000	960,000	教区慶讃法要懇志
	合 計	735,685	2,510,000	1,774,315	

歳入合計 2,191,109 歳出合計 735,685 差引金額 1,455,424 ※2023(令和5)年度に繰越

編集後記

本年度の門徒総代会研修会は、オンライン配信を実施し、三名の方がオンラインで参加されました。現代はオンライン配信技術をはじめ、多くの情報伝達手段が電子化されています。しかし、紙媒体独自の魅力は、今日も変わらず私たちの間に息づいています。

紙媒体の最大の特徴のひとつは、時間が経過しても情報を失わない耐久性にあります。確かに、電子データを長期保存する技術も存在しますが、将来的にアクセスできなくなる可能性がつきまといま

す。紙と電子、両媒体はそれぞれに利点と欠点を持ち合わせています。これからの社会では、両者の良さを活かしたコミュニケーションが求められています。

この「門徒総代会だより」は、紙媒体の良さを大切にしながら、皆さまにとって価値ある情報を提供できるよう、誌面の充実に努めて参ります。

(事務局)